

詳細は後述)だけを頼りに、ロボットを遠隔操縦する。ただし、自律型のロボットを使うことも可能である。ダミヤンにはセンサが内蔵されており、手荒な扱いを受けたかどうかを検知することができる。また、要救助者の容体把握を想定し、胸部記号パターン (QR コード)、発信音および頭部が発光するという個体差が設けられている。個体差の特定は、それぞれ記号パターンの読み取り、発信音の周波数解析、発信音の断続パターン解析、発光色の特定により行うことができる。競技では、これらの個体差識別の成否によって要救助者の容体判定がなされたものとみなされる。よって、いかに早く救助するかということだけでなく、ダミヤンに対する扱いのやさしさ、ダミヤンの容体判定結果の正否も重要な評価基準である。また、第 19 回レスコンから導入された支援物資提供ミッションに成功すると加点される。なお、レスキュー活動前にはチームのレスキューやロボットに対する考え方をアピールするプレゼンテーションが義務づけられている。

レスコンでは、フィロソフィーに基づきレスキュー工学大賞などいくつかの賞を与える。特に、レスキュー工学大賞は、競技会におけるロボットの完成度、競技結果だけではなく、レスキューに対する考え方や競技内容などを総合的に評価して決定するレスコンで最も意義深い賞である。

(注1) 現在のところは架空の研究所である。

4. 競技会場

競技会場には、左右 2 組のテストフィールドとコントロールルームが設置され、2 チームが同時にそれぞれのテストフィールドで競技を行う。テストフィールド(約 4,500mm×5,400mm)は、ルーム、共通(通路)エリア、救出(屋外)エリアで構成されている。

コントロールルームは隔壁によってテストフィールドと隔てられ、キャプテン、オペレータ、エンジニアはコントロールルーム内で活動を行う。コントロールルームには、高所に設置された固定カメラである室内カメラ(注 2)からの映像用モニター、評価ポイントを映し出すモニター、および、容体判定入力用 PC がある。ロボットはテストフィールド内の共通(通路)エリアに接続しているスタートエリア(900mm×1,800mm)からスタートゲート(幅 700mm、高さ 600mm)を通過して出動する。ロボットからの映像表示および遠隔操縦用 PC は、チームが準備し、持ち込む必要がある。

ルームは複数のブロックで構成されている。ダミヤンはいずれかのブロックに配置され、チームはテストフィールド内でダミヤンを発見し、救出を行う。ダミヤンの周囲には複数の障害物が配置されていることもある。また、テストフィールドは 2 階建てとなっているため行き来するための階段(またはスロープ)などが設置されている。このテストフィールドの状況は、レスキュー活動直前の作戦会議(項目 7. を参照)まで確認することはできない。なお、競技会場や障害物のサイズや材質等についての詳細は項目 8. に示す競技規定を参照のこと。

(注2) 災害現場を高所から撮影するテレビカメラ。事前の探索チームによって設置されたもしくは、被災前から設置されていた防犯カメラを想定している。なお、テストフィールドの全容が撮影されているとは限らない。

(注3)

5. ロボット

ロボットは、遠隔操縦型あるいは自律型とする。ロボットのサイズ・重量・機数に制限はないが、スタートエリア内にロボットすべてを配置でき、テストフィールドへはスタートゲートを通過しなければならない。ロボットの遠隔操縦には指定するレスコンボードの使用を推奨するが、それ以外のロボット制御ボード(規定を参照)も使用できる。また、レスコンボード内での自作プログラムの使用を認める。ただし、自作プログラムに起因する障害に関してはチーム責任とする。なお、レスコン 2022 では、無線通信だけでなく有線による接続も許可する。最後に、テストフィールドの制約上、安全確保が難しいため、飛行ロボットは出場を認めない。

電池については、リチウムリン酸鉄充電電池、ニッカド充電電池、ニッケル水素充電電池、密閉型鉛蓄電池および乾電池のみ使用を認める。ただし、それら電池は市販状態(注 3)のものとする。リチウムリン酸鉄充電電池は、事故の際でも燃焼物を放出しない安全性を有している充電電池であり、これの使用を推奨する。

(注4) ハンダ付け等により充電電池セルを接合した自作電池パックの使用は、充電電池の内部構造を破壊し、充電時の制御が正常に行われぬ恐れがあるため、安全の観点から禁止する。直列や並列に接続する場合は必ず電池ケースやコネクタ等を用いること。特に、充電時は、必ず、その充電電池に付属している取扱説明書にある充電状態を実現できるように使用すること。

6. 競技を行うメンバーの構成

競技を行うメンバーは、次の役割を担当する7名以内で構成される。

- ・キャプテン チームの指揮をとる。リスタートの要請をする。
- ・スピーカー プレゼンテーションをする。
- ・オペレータ ロボットの操縦および整備をする。
- ・エンジニア ロボットを整備する。
- ・通信デバイス管理者 競技会中の通信デバイスの運用を円滑に行うため、自チームの使用するレスコンボードもしくは他の通信デバイス及びそれに関連する機器の管理を行う。
- ・ヘルパー ロボットの退場作業などを行う。なお、ヘルパーは、競技中にテストフィールドに入るため、スピーカー以外の担当を兼務することはできない。

これまでの競技会での実績を踏まえると3名が実際的な最小構成人数と思われる(例：ロボット2機＝オペレータ2名でキャプテン、通信デバイス管理者はオペレータが兼務。ヘルパー1名)。

なお、キャプテンと通信デバイス管理者は、担当者を分けなければならない。オペレータは2名までとする。また、競技を行うメンバー数にはコントロールルームへの機材搬入のための人員は含まないものとする。

7. 競技会本選の流れ

競技会本選は、14チームで行われる。1回の競技は、次のような流れで行われる。

- | | |
|---------------------------------|------------|
| 1) 救助活動のコンセプトなどを紹介するプレゼンテーション | 2分30秒×2チーム |
| 2) 室内カメラからの実験フィールドの映像をもとに行う作戦会議 | 3分 |
| 3) レスキュー活動 | 10～12分 |
| 4) レスキュー活動結果の報告 | 2分程度 |

8. 競技規定

規定は「レスキューロボットコンテスト2022規定」を参照すること。曖昧さを減らすためや、想定していなかった事項に対応するために、書類審査後に2回の改訂版公開の可能性はある(競技会予選前、競技会本選前)。競技は、最新の規定に則して行われる。

9. 書類審査、競技会予選

レスコン2022では、全応募チームの中から最大2チームを主催者枠として選抜する。併せて、予選出場チームのうち機器貸与を希望したチームから書類審査順位上位チームより機器貸与チームを決定する(注4)。

競技会本選に先立ち、競技会予選をオンラインにて実施する。競技会予選は、すべての予選参加チームから競技会本選に出場する14チームを選抜するために行う。14チームの内訳は、主催者枠1～2チーム、競技ポイントに基づく選抜8～9チーム(ただし、競技ポイントを獲得したチームに限る)、およびアイデアなどが評価された4チームである。採択チームは競技会予選に出場しなければならない。

競技会予選は、期限までに提出された8分以内の動画に基づいて実施する。動画は事前公開された競技会予選競技課題を各チームが実施した内容とする。詳細はレスキューロボットコンテスト2022規定に定めているが、各チームが2つの課題フィールドを準備し、ダミヤンを救出し搬送する一連の動画とする(注5)。さらに、動画撮影用にダミヤン(簡易版)を1体各チームに貸与する。また、主催者枠チームであっても、競技会予選での完成度が極端に低い場合は、棄権勧告を行う場合がある。

(注4) 25チーム程度が上限。

(注5) 各チームに課題フィールド準備用製作補助費(仮称)を支援する予定である。

(注6)

10. 機器貸与等について

貸与を希望したチームから書類審査で機器貸与チームに選ばれたチームには実行委員会より、ロボット製作用として、レスコンボード2セット(全てTPIP3)、PWM増設基板2セット、動作確認用機器を貸与する。TPIP3の詳細は別紙に示す。機器貸与チームに選ばれなかったチームは、機器貸与は行われないため、参加

チームで準備すること。競技でネットワーク機器に接続して利用できるロボット制御ボード（レスコンボード等）は、規定の「ロボット通信システム」の要件を満たす必要がある。

ロボット制御ボードの使用数は無制限とするが、通信帯域の制約により5セット以上では、映像遅延、操作不能などが発生する可能性が高くなる。貸与された機器は、競技会終了後、貸与時と同じ状態で返却すること(注6)。

(注7) 貸与備品を損傷、紛失等した場合は、実行委員会の指示に従うこと。

11. 参加申込みおよび連絡先等

下記のレスコンウェブサイト内の募集要項バナーより参加申込書類をダウンロードして必要事項を記入し、**2022年1月31日(月) 24時まで**に、下記提出先へ書類一式を添付ファイルとして電子メールにて申込みのこと。なお、添付ファイルの容量が大きくメールが正常に送信できない場合は、データ転送サービス等を用いても良い。書類の記入方法などの詳細については「レスキューロボットコンテスト2022参加申込書」を参照のこと。なお、受信後3日以内に実行委員会より受取確認のメールを送信するので必ず確認のこと。申込みの前に、レスコンウェブサイトで、「レスキューロボットコンテストのフィロソフィー」、「レスキューロボットコンテストのストーリー」および「レスキューロボットコンテスト2022規定」を入手し、熟読されたい。なお、レスコンの運営上必要となるチームの提出物に関する著作権及び肖像権は全て実行委員会に帰属することを原則とする。また、レスコンの競技参加に関する問い合わせや質問は、電子メールで受け付ける。なお、12月4日(土)にオンライン開催されるロボット×レスキューフォーラム2021のレスコンシンポジウム2021において、レスコン2022の競技説明や直接質問を受け付ける時間を設ける。

なお、応募内容は、レスキューロボットコンテストの運営上必要な範囲でのみ使用する。

レスコンウェブサイトの URL : <https://www.rescue-robot-contest.org/>

参加チーム向けウェブサイトの URL : <https://www.rescue-robot-contest.org/forTeam/>

(随時最新情報を掲載しているので、定期的に関覧されたい。)

問合せ先 : E-mail: office@rescue-robot-contest.org

参加申込書類提出先メールアドレス

entry2022@rescue-robot-contest.org

12. 予定

今後の予定は、次の通りである。

- | | |
|-----------------------|---|
| ・2021年12月4日(土) | ロボット×レスキューフォーラム2021(オンライン開催)
レスコン2022の説明会の内容を含む。 |
| ・2022年1月31日(月) | 参加申込〆切 |
| ・2022年2月21日(月) | 書類審査結果通知(全申込チームにメールにて通知)
書類審査結果公表(ウェブにて公表) |
| ・2022年2月28日(月) | 書類審査結果等詳細通知(全参加申込チームにメールにて通知) |
| ・2022年3月中旬 | 貸与機器発送 |
| ・2022年3月26日(土) | レスコンボード講習会(オンライン開催) |
| ・2022年6月26日(日) | 競技会予選(オンライン開催) |
| ・2022年8月13日(土)~14日(日) | 競技会本選 |
| ・2022年12月 | 貸与機器返却 |